

式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

また、これまで新入生の皆様に励まし、支えてこられたご父母をはじめとする関係者の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

本日、ご来賓の皆様のご列席のもとに、平成二十五年度の入学式を挙行できますことは、私ども教職員をはじめ本学関係者にとり大きな喜びとするところであります。

武蔵大学は、一九二二年に設立された旧制武蔵高等学校をその前身とし、一九四九年に開学しました。以来、武蔵大学は、旧制高等学校から続く伝統を踏まえ、ゼミナールを中心として高い質の教育を行ってきました。新入生の皆さんは、こうした武蔵大学の伝統を理解し、これから四年間、本学で充実した大学生活をすごして下さい。

さて武蔵大学には、旧制武蔵高等学校以来掲げてきた「建学の三理想」があります。

これは、本学での教育によって育成すべき人物像を示した三つの理想です。すなわち、第一に、「東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物」、第二に、「世界に雄飛するにたえる人物」、そして第三に、「自ら調べ自ら考える力ある人物」です。また私たちは、旧制高等学校以来のこの「建学の三理想」を踏まえつつ、現在の武蔵大学が目指す教育の三つの目標を定めています。この三つの目標とは、「自ら調べ自ら考える（自立）」、「心を開いて対話する（対話）」、「世界に思いをめぐらし、身近な場所で実践する（実践）」です。

第一の目標、すなわち「自ら調べ自ら考える（自立）」とは、主体的に、また創造的に考えることのできる人物を育てようということです。高等学校までの学習の中心は、さまざまな知識の記憶や、予め定められた正解にたどりつくための思考方法の訓練であったと思います。このような学習は、もちろん必要なものです。しかし、皆さんがこれから大学で行う勉強は、これに止まるものではありません。各学部の専門科目をはじめとする大学の授業において、興味をもって学び高い成果をあげるためには、ただ受動的に授業を聞きくのではなく、授業でとりあげられるテーマについて自分自身で問題を発見し、それを自ら主体的に考えることが大事です。学問は固定した知識のたんなる積み重ねではありません。日々、新しい考えが示され、従来の通説が見直されることもしばしばあります。これから皆さんを教える本学の教員は、こうした学問研究の第一線で活躍しています。こうした教員に対して、皆さん自身の疑問を問いかけ、自分の考えを示してみして下さい。それによって学問の面白に皆さんも触れることができるでしょう。大学とは、このように自ら積極的に、生き活きと学ぶことができる場です。

また、「自ら調べ自ら考える」力、すなわち主体的で創造的な思考力は、皆さんが大学生活を終え社会で活躍するようになった場合に大変重要となる力です。社会人となった皆さんが直面し解決を迫られる問題には、予め決まった解き方も答えもありません。自分自身での

確に情報を調べ、自ら考え抜いて新たに答えを導きださなければなりません。大学での勉学を通じて、この力を充分に身に着けて下さい。

次に、本学の教育の第二の目標、「心を開いて対話する(対話)」についてお話ししましょう。ここでいう「対話」とは、友人同士などとの気晴らしのための会話を愉快に行うことではありません。相手の気持ちや話の内容を正確に深く理解し、自分の気持ちや言おうとすることを的確に相手に伝えることです。このような「対話」を行うためには、お互いの心理や置かれている状況の理解力が必要であるだけでなく、相手の主張を論理的に捉えなおして理解する力や、相手が理解できるかたちで自分の考えを組み立て、これを伝える力が必要となります。こうした真の意味での「対話」力は、今後皆さんが社会に出た場合に必ずともめられるものだと思います。

武蔵大学では、「自立」して考える力や「対話」する力を育て上げる場が数多く用意されています。特に、一年次から四年次まで履修するゼミナールでは、少人数のクラスで、自身が調べたり考えたりしたことを教員や学友に対して発表し、討論するというかたちでの二つの力を育てることが出来ます。主体的に学ぶことのできるさまざまな授業に積極的に取り組み、自立的思考力と対話力を大いに伸ばして行って下さい。

第三の教育目標、すなわち「世界に思いをめぐらし、身近な場所で実践する(実践)」については、次のことを指摘しておきましょう。

皆さんもご承知のように近年、グローバル化が大いに進み、今後その流れは一層加速していくことでしょう。皆さんが社会の中核的人材として活躍する十年、二十年後には今では想像できないほどグローバル化した社会となっている可能性は大きいと思います。グローバル化した社会で活躍できる実行力、実践力をもつことは、これからの社会を支えリードする人物となるために必須の条件であるといえます。

では、そのためにどのような力が必要となるのでしょうか。またそのために皆さんは大学で何をすべきなのでしょう。

今まで述べてきた「自立」的な思考力や「対話」力は、国際社会で活躍するためにも大いに必要とされます。また、自分たちとは異なる社会や文化を理解することも重要です。そして、いうまでもなく外国語の力を充分に身に着けることも不可欠です。

大学の四年間、外国語学習に積極的に取り組みれば外国語の力を大きく伸ばすことが出来ます。そして武蔵大学にはそれを支える仕組みが整っています。必修の授業だけでなく、それ以外の授業も積極的に選択して履修し、外国語力を向上させて下さい。また、大学一号館三階には、「MCV」という学習スペースがあります。ここでは少人数の会話レッスンはじめとするさまざまなプログラムが用意されており、授業以外の時間を活用して外国語を学ぶことが出来ます。

さらに本学と協定を結んでいる海外の大学に留学するという道もありますし、アメリカの名門州立大学であるテンブル大学のジャパンキャンパスで授業を履修し、単位を取得することも出来ます。

以上、「三つの目標」に関連して本学の教育について述べてきましたが、勉学だけでなく、部やサークルでの活動などにも積極的に取り組んで下さい。

大学での四年間は長いように思われるかもしれませんが、しかし、漫然と過ごしていると、成果をあげないまま、たちどころに終わってしまいます。四年後に卒業し社会に出るとき、どのように成長した自分となっているのか、その姿を思い描いてみて下さい。そして、そのためにこれからの四年間に何をすべきかを、今から考えて下さい。高い目標を掲げ、それに向かって積極的にチャレンジすることで、皆さんに与えられた四年間を最も充実したものにして下さい。

そうした皆さんの努力を私たち教職員は全力で支え、支援します。

このことをお約束し、私の式辞の結びと致します。

平成二十五年四月二日

武蔵大学長 清水 敦